



校長室通信

「あたたかな思い」

先々週の事です。卒業式前日の3日(金)に「小国町女性会」の木田増美会長と鳩野美陽子さんが来校され、9年生一人一人に卒業祝いの紅白饅頭を寄贈くださいました。

饅頭には折り紙のリボンが添えられたメッセージも付けてあり、その温かなお心遣いに9年生は笑顔になっていました。

木田会長には、中学校での三年間をコロナ禍の中でも頑張ったことを誉めていただきましたが、生徒にとっては、こうやって最後まで気にかけていただけたこと、これからも見守っていただけることを心強く思ったはずです。

卒業後の進路はそれぞれで、中には県外の高校に進学する生徒もいます。ただ、どこに進んだとしても、この温かな小国町で育ったことを誇りに思い、前に進む力に替えてくれるはずです。そのような力を与えていただけましたことに、あらためて感謝申し上げます。



【向かって左側が木田さん、右側が鳩野さんです】



【あたたかな思いが込められた饅頭でした】

「よーい はじめ」

4日(土)の卒業式は、厳粛な中にも温かな式が挙行できました。そういう式が出来たのも在校生が会場準備と片付けを率先して担ってくれたからこそでした。

在校生の卒業式への参加は、昨年度はリモートで行い、画面越しではあっても各教室できちんとした態度で臨んでいたという報告があっており、頼もしく思っていたものです。しかし、だからこそ今年は何としてでも全校生徒で作る式にしたいとの思いがありました。

当日の、9年生の堂々とした姿を間近に見たこと。全員合唱の歌声を生で聴けたこと。そこから、一年後、二年後の自分の姿をイメージしてほしいとの思いがあつてのことでした。卒業生保護者の方々からも「在校生の姿勢も素晴らしかったです。ありがとうございますと伝えてください」とのお言葉を何件もいただきました。本当に嬉しいです。

卒業生が最後に歌った合唱曲の「正解」は、「よーい はじめ」という言葉で終わります。

卒業生はもちろんのこと、8年生・7年生にとっても、新入生を迎えた新しい小国中学校づくりがやがて始まります。与えられたこれからの時間の中で、それぞれが希望溢れる正解をめざして、「よーい はじめ」です。



【3年2組の黒板。1組も温かい言葉で飾られました】



【8年生と7年生の生徒です。期待しててください】